

# 公園内で見られる植物

写真は11月11日(土)  
自然観察会で見られた  
植物です



メタセコイア（スギ科）とラクウショウ（スギ科）の紅葉

メタセコイアとラクウショウが並んで植わっていると区別が付きにくいのですが、メタセコイアは葉の付き方が対生で球果が大きく、樹冠が円錐形で丸みを帯びないので区別することができます。

ラクウショウは別名「ヌマスギ」とも言われ湿地を好みます。特に膝根と呼ばれる呼吸根は地面からニョキニョキと地表に現われ、人間や動物を思わせる不思議な形をしています。落葉する針葉樹はあまり無く、日本には落葉松（カラマツ）があります。メタセコイアは中国南西部原産、ラクウショウは北米東南部・メキシコ原産です。



### アオツツラフジ (ツツラフジ科)

アオ（青）は生きている蔓が緑色であることから、ツツラは葛籠（つづら）の材料としたことに由来するとされています。有毒植物で実は食べられませんが、蔓や根は木防己（モクボウイ）と称して漢方薬に用いる事もあるそうです。別名カミエビと呼ばれます。



### コマユミ (ニシキギ科)

ニシキギと全く同じですが、枝にコルク質の翼ができないものをコマユミと言います。葉は紅葉した後に散ります。果実は1個しか発達しないものが多く、マユミに比べて葉が小さいのが特徴です。



サザンカ (ツバキ科)

「サザンカ、山茶花、咲いた道。たき火だ、たき火だ落ち葉たき・・・。」童謡のこの歌を思い出します。花は良い香りがします。ツバキと違って花びらは1枚ずつ散ります。種子からとれる油は、かたし油と呼ばれツバキ油と同じように用いられます。寒椿と同様冬の花の代表です。



スギの雄花 (スギ科)

写真を見ただけでくしゃみ（花粉症）がでそうになります。枝先にびっしりついているのは、雄花です。人工林として杉は有名です。日本海側の杉をウラスギといいます。奈良県の吉野杉、秋田県の秋田杉、富山県の立山杉、宮崎県の飢肥杉、鹿児島県の屋久杉は有名です。

名前の由来は幹が直立していることから、直木（すき）が変化したとか、すくすくと立つ木の意味の説があります。



ツルアリドオシ (アカネ科)



ツルリンドウ (リンドウ科)

ツルアリドオシ (常緑の多年草) は、花の痕が2か所着合して1個の実になるのが特徴です。実と違って梅雨時期に咲く花は白く小さい花なので、見過ごしてしまいます。名前の由来はツル性でアリドオシの赤い実に似た実を付けるところからきています。但し、アリドオシには茎に刺がありますが、ツルアリドオシにはありません。千両、万両に対し1両と呼ばれます。

(参考：カラタチバナを百両、ヤブコウジを十両)

ツルリンドウ (ツル性の多年草) は、リンドウによく似た紅紫色の花を付けます。果実は液果で枯れ残った花冠の上に突き出すように紅紫色の実を付けよく目立ちます。写真の実には先に花柱が残っていますね。



ツルシキミ (ミカン科)

名前の由来は、シキミに葉が似ていて枝が地面を這う蔓のように見える事からツルシキミの名になりました。花の後に付く実は球形の核果 (水分を多く含み中に種が一個ある) で葉や実は有毒 (アルカロイド) で食べられません。葉は先端部に輪生状に集まり、両面とも光沢があります。また、油点があり傷付けると柑橘系の匂いがします。



ノイバラ (バラ科)

別名ノバラ。バラが付くので棘があります。森の中に入って服が引っかかるのは大体ノイバラです。この時期フユイチゴの実を食べることはありますが、この実が食べられるとは知りませんでした。完熟した実は甘く香りが良く利尿剤などの薬に用いられるそうです。花は香水の原料になるそうです。



ケヤキの種 (ニレ科)

樹冠が、扇を開いたような形になっていますね。子孫を残そうと沢山の種を付けています。小枝ごと葉と一緒に種を飛ばします。例年きれいに紅葉するのですが、今年は緑からすぐに茶色に変わりそうです。ケヤキの名はケヤケキ木(目立つ木)の変化したものとされています。徳川幕府が奨励策として植えた木なので、関東地方に特に多く巨木・銘木がみられます。私は木目が美しいので工芸品を作る木というイメージがあります。



### センニンソウの種 (キンポウゲ科)

花が終わると花柱がのびて、実の先端に白くて長い羽毛状のものができます。これを仙人の髭にみたてたことからこの名が付いたようです。別名「ウマクワズ (馬食わず)」と言い、馬や牛が絶対に口にしないものです。茎や葉に有毒物質を含みかぶれをおこします。漢方では根を「威霊仙」と呼び利尿鎮痛などに用いているそうです。毒と薬は紙一重ですか？



### ヤマノイモの種 (ヤマノイモ科)

別名ジネンジョ (自然に生える芋の意味) として知っている人が多いと思います。毎年古い芋の養分を吸収してより大きな新しい芋を作るので、食べられるようになるまで4～5年はかかるそうです。芋が折れないように地下深く掘るのも大変ですが、お値段も高いですね。